



フエの人々の交流空間



グハ沿いのオープンスペース ; No.26

フエは歴史資源・自然資源が多くあり、それらは地域のコミュニティ、公共の生活行動などにとって様々な関係を持っている。ここでは人々の交流する空間（都市のオープンスペース）についてとりあげ、その空間の特徴を示す。

「気持ちのいい交流空間」

（配置図；凡例 6、7、8）

住宅街のなかにあるちょっとしたスペースで地域のコミュニティの場として機能している空間がある。

多くは、水辺に面した空間、水面と道路との間にある空間などで様々な工夫がなされ、人々が憩い、集う場所となっている。

水辺空間で見られる活動は様々で、漁や農業、喫茶店、露店の出ている所もあれば、ベンチがおいてある所、子供達がサッカーなどを行っている所もある。

そうした人々の生活に関わることを含め、使われ方の詳細については「気持ちのいい水辺空間の使われ方」で述べることにして、ここでは緑・水辺によって気持ちよく人の集まることのできる空間、まちなかにある人の集まることのできる空間を主にとりあげる。

水辺は木々もよく茂り、風通しも良いため、人々にとって居心地のよい場所となっている。これらは環境と共生している都市のフエならではの交流空間だと考えられる。

水辺における交流空間

1.住宅地にある溜め池の周り

溜め池の水面上にはレストランがでている所もあるが、



水上レストランのある溜め池周辺 ; No.17
露店が並ぶ。椅子が比較的多いため、ゆっくり過ごす人が多い。朝はひなたになるため人の姿はあまり見られず、11時頃から賑わう。



溜め池と道路間の空間 ; No.20
風通しも良く、樹木も茂っているため、洗濯、バトミントン、サッカー、線香を乾燥させる、将棋、喫茶店等様々な使われ方をしていた。



フォン川のほとり ; No.19
城壁外南側大通り周辺。川沿いの広場は夕方頃水泳をする子供たちで賑わう。早朝にはバトミントンをする大人で賑わう。

そうした溜め池の周辺では、住居、喫茶店以外にも、広いスペースではないが、休憩所があったり、サッカーをしている子供達の姿を見ることができる。

2.交通量の多い道路と水辺の間の空間

北東エリアでは、景観をよいものに保つため、背の高い椰子の木を間隔を広めにとって植えているなどの工夫もみられ、休憩所、喫茶店、運動場など近所の人々に利用されている。

3.グハ沿いの親水空間

休憩所、水辺へおりの階段などがあり、景観がよく遠くの山まで見渡すことができる。

4.フォン河のほとり

露店が出ていたり、遊泳を楽しむ子供がいたりするスペースがある。

まちなかにある交流空間

1.街区内部にあるセミパブリックな空間

住宅地では街区内部の使われ方は場所毎に様々で、近隣住民のバレーボールコートなどが置かれ、人々が集まる空間として利用しているところもある。

2.建築と建築の間にできた空間

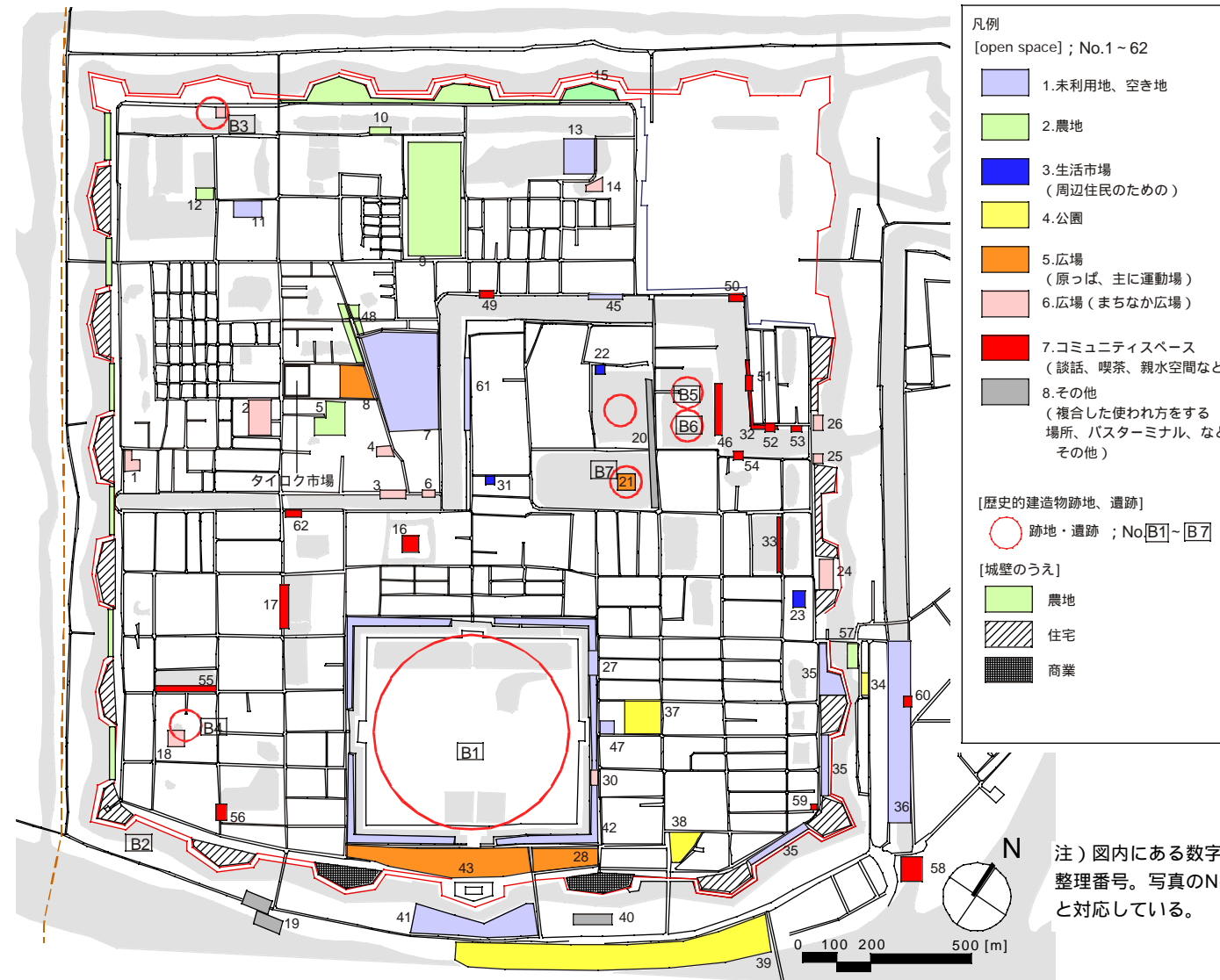
住宅が比較的密集したところでは1軒分くらいの空き地となったスペースで人々が集まる。

3.小屋

昼寝をしたり、談話をしたりしている小屋。

4.溜め池を埋め立てた跡地

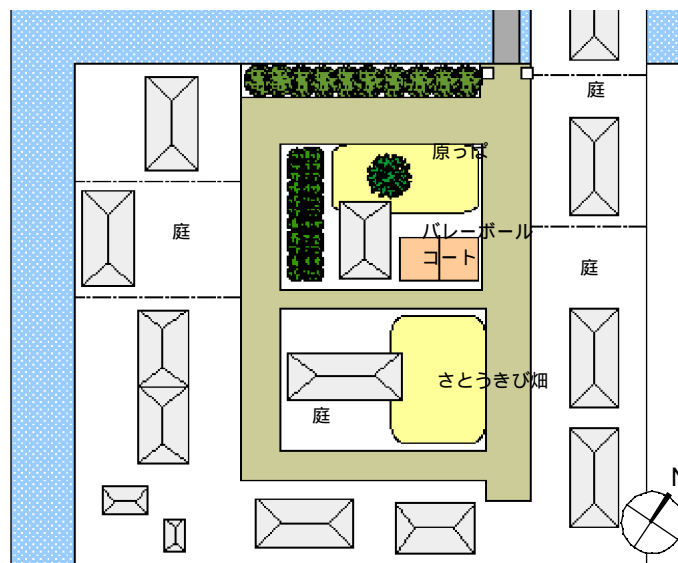
以前と比べ、埋め立てなどで溜め池の数は減っている傾向にあるようだが、埋め立てられた跡地では砂場のような状態で子供達が遊びやすく、賑わっている。



凡例	
[open space] ; No.1 ~ 62	
	1.未利用地、空き地
	2.農地
	3.生活市場 (周辺住民のための)
	4.公園
	5.広場 (原っぱ、主に運動場)
	6.広場(まちなか広場)
	7.コミュニティスペース (談話、喫茶、親水空間など)
	8.その他 (複合した使われ方を する場所、バスターミナル、 などその他)
[歴史的建造物跡地、遺跡]	
	跡地・遺跡 ; No.[B1]~[B7]
[城壁のうしろ]	
	農地
	住宅
	商業

注) 図内にある数字は整理番号。写真のNo.と対応している。

open space 配置図



池に囲まれた敷地で、変わった敷地割りで数家族が住んでいる。敷地の中央にさとつきび畑とバレーボールコートがある。夕方になると男性4~5人がバレーボールをしている。子供たちはその周りの道で数人が遊んでいる。ほとんど私有地なので道も含め全体が広場的な使われ方をしている。



住宅地内のスペース ; No.4

住宅地内の敷地のひとつがオープンスペースになっている。夕方になると日陰ができて、子供が数人サッカーをしている。



昼寝小屋 ; No.59

竹でつくられた昼寝小屋。堀も竹で作られたスカスカのもので風通しがよさそう。大木とともにあり涼しそうだ。

「都市的な公園、広場」

(配置図；凡例 4、5)

特に京城内南側、新市街には、整備のいきとどいた公園、フラッグタワー前の広大な広場など、都市的な位置づけができる、また公共的な性格の強い空間がある。

これらは、宅地化、商店街の発展などの開発に伴い、整備された、あるいは残されたと考えられるスペースである。

広場では主にサッカーなどの運動、公園では高い木が生い茂ったところで、読書、ベンチで涼む、などの使われかたをしていた。

フラッグタワーの広場前では、普段は夕方になるとサッカーをする人々で賑わうのですが、式典などで多くの人が集まる時もある。



フラッグタワー前広場；No.28

記念日であったためか朝は木陰で学生の朝礼があった。自転車も木陰にとめる。昼は誰もいない。夕方になって日があたらなくなると一斉にサッカーが始まる。



カフェとメリゴーランドのある公園；No.34

朝はカフェがたくさんのおじさん(20人)くらいで賑わう。男の子がサッカーをする。昼は2、3人しかいない。夕方はカフェがまた賑わい、メリゴーランドで幼児が遊ぶ。

「生活市場」

(配置図；凡例 3)

住宅が密集するところなどで、突如出現したりする。ドンバ市場、タイロク市場のように規模の大きいものではなく、比較的小規模なスペースで主に周辺住民のための食料品(果物・野菜・その他)、生活用品などを扱っている。

1. 道路と水辺の間でできる空間が市場になっているもの (No.22)
2. 住宅地のなかにできた空き地を利用しているもの (No.31)
3. 街区内部に存在するもの (No.23)

どこも終日買い物客の出入りが多く、住民にとって利便性の高いものとなっている。



生活市場の様子；No.23

街区内部に存在する地元民のための市場。終日買い物をする女性の人達で賑わっていた。周辺市場の影響で通りにまで露店がはみだしており、賑わっている。



旧タイロク市場(現在未利用)；No.2

旧タイロク市場跡地。昼はだれもいない。夕方はやい時間から子供が数人サッカーをしていた。現在建て替えが進んでいる模様。

「低利用、未利用地」

(配置図；凡例 1)

王宮周辺、川辺、宅地化があまり進んでいない地区などではあまり人々に活用されていない低利用、未利用地が多く存在する。これらの活用の仕方について今後まち全体のシステムと関連して考えていく必要がある。

王宮の周りがある堀と道路の間では、東門より南では整備がされていて芝生になっているが、北側は荒地になっている。北側では牛の放牧が見られたり露店が出たりと、特に決まった使われ方をしていない。

また旧タイロク市場の跡地では昼間は誰もおらず、夕方になると近所の子供達がサッカーをするなどの使われ方をしている。現在建て替えが進んでいるようだ。



城壁周辺の荒地；No.27

城壁周辺の道路と堀の間のスペースでは、特に決まった使われ方をしていない。たまたま虫取りをする少年がいた。牛の放牧がされているところもある。



北西部の広い荒地；No.7

広大な荒地。住宅地に接したところ、川沿いなどの一部が農地として使われていたが、ほとんどが荒地となっている。人の姿は日中ほとんど見かけない。

「農地」

(配置図；凡例 2)

北部では農地が多く、その一部のスペースで子供達がサッカーをするなどの行為が見られた。北部では未だ宅地化、商店の増加などによる開発がさほど進展しておらず、そのようなところではこうした農地で人々が交流する場としても機能している。

「遺跡、歴史的建造物跡地の空間」

フエの京城内は王宮をはじめとして、いくつかの歴史資源が点在して残っているが、交流空間として利用されているところがある。また一方で住宅になってしまっているところもある。

京城を取り囲む城壁も同様、農地や住居として様々な形でフエ住民の生活の場となっている部分もある。城壁、歴史的な建造物を修復、保存していくべきかどうか考える前に、まず現状の使われ方をここで示す。

B1；王宮跡

観光地として人々が集まる場所。観光客の姿も多く見られる。現存する建造物は少なく、現在も保存、修復活動が続けられている。王宮中央には建物がなく、草原が広がっている。



王宮正面；No.B1

B2；城壁跡

フエの京城内では城壁も人々の生活の場として様々な使われ方をしている。城壁の上は場所によって、農業、住宅、商業、広場と多用途に使われている。



城壁上に建つスクオッタ；No.B2

B3；先農壇跡

北西エリアの裏路地の突き当たり位置するこの遺跡は、庶民のための祭壇として使われていると考えられる。パントリーが綺麗に飾っており、朝は地面に葉やゴミが落ちていないことから、定期的に掃除が行われている。

現状の使われ方

庶民のための祭壇となっており、夕方は子供の遊び場

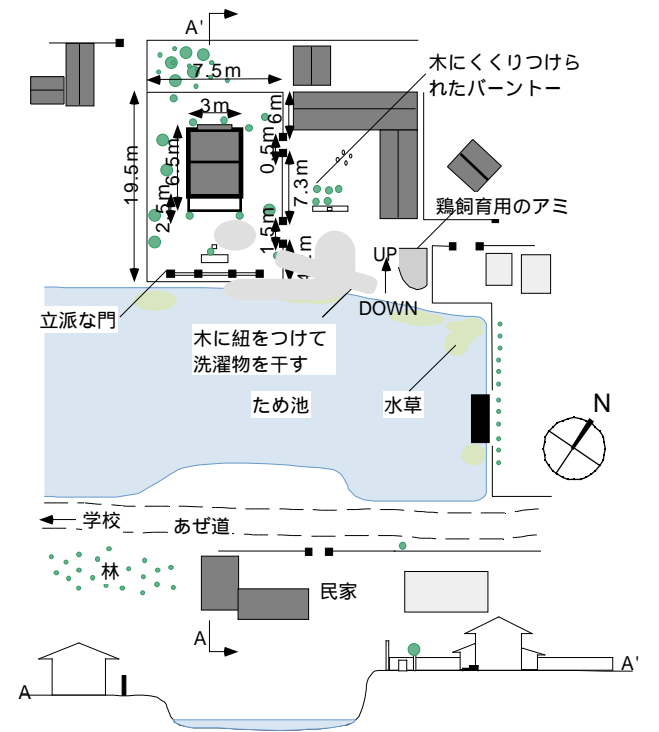


水辺越しに見る先農壇；No.B3



北部の農地；No.5

グハ沿いのスペースで農業をしていた。北部ではこうした光景がよく見られ、一部がサッカーや、子供の遊び場になっていたりする。



No.B3；先農壇配置図、断面図

として賑わう。

周辺の様子

周りに木が多く、また、池に面しているため、涼を得ることができそうだ。池側が正面になっている。横の入口の前がオープンスペースになっていて、洗濯物を干したり、水辺で休むなどパブリック空間として利用されている。

B4；社稷壇跡

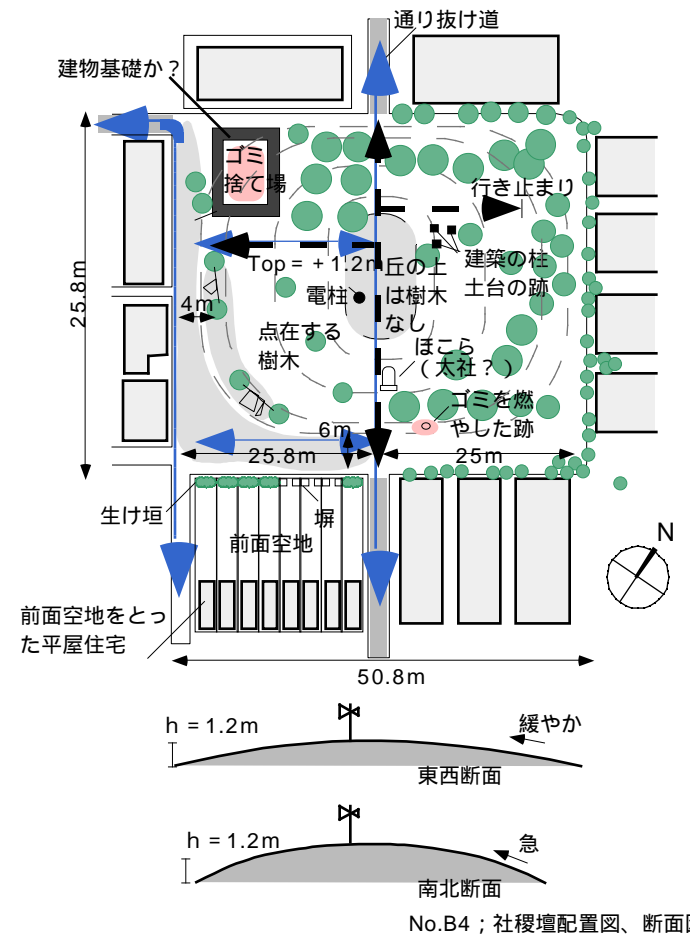
社稷壇とは、土地と五穀の神を祭る祭壇のこと。現在は跡形もなく、小さな丘の広場になっていて、東側にはうっそうとした緑、西側は緑が点在している。



小さな丘になっている社稷壇跡地；No.B4

現状の使い方
南北に通り返ける人々は多い。

広場で遊ぶ（丘とその周辺） 木陰で将棋をする。
洗濯ものを干す、ゴミも燃やす、捨てる。
周辺の様子
広場（丘）に面して、住居が配置している。



No.B4；社稷壇配置図、断面図

B5；臺跡

建造物も含めて、この島全体が住宅として機能している。

現状の使い方
遺跡自体は現存する。住宅として使用され、水風呂、居間のようなものが外から



住居利用されている臺；No.B5

確認できる。

周辺の様子
遺跡周辺には、勝手に建てられたと考えられる平屋住宅がある。東側の住宅については、居間、TV等が外から伺え、遺跡との間は人々が集まる中庭空間となっている。
石造の小屋は遺跡の欠片かもしくはトイレと考えられる。
水道は水浴びをしたり、洗濯をする場となっている。
島の縁に樹木が生え、過ごしやすい場所になっている。

B6；官署跡

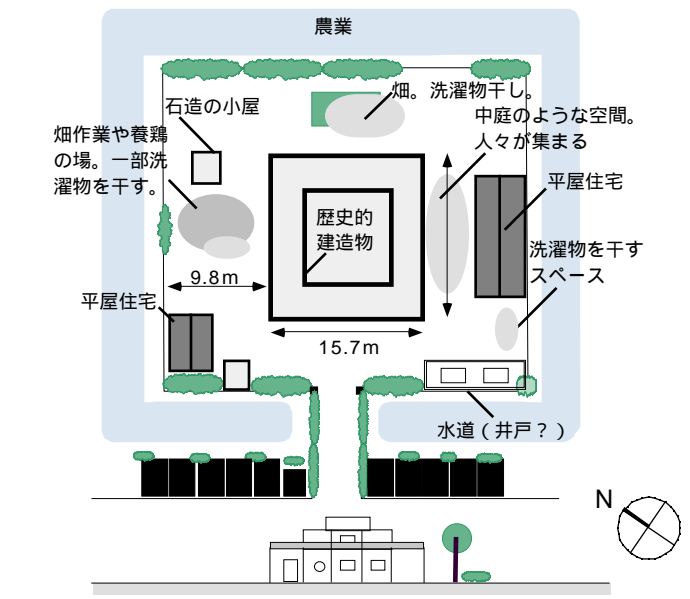
建物自体は新しく建て替えられた様子で、色も鮮やかな寺社。室内は光沢のあるタイルがはってあり土足で入ることは禁止されている。



官署；No.B6

周辺の様子
本殿の周囲は畑、ほこら、事務所のようなものが配置されている。周囲を高い木で囲まれるため、島の外部から認識しづらい。

使い方
一日3回の調査のなかで、これといった利用者の動きは見られない。そこにいるのは住職とその使用人らしき男2人。畑、本堂共にこれといった人々の活動は見られなかった。日本の寺も同様静かなたたずまいであった。
戸締まりなどの管理は周囲に住んでいると考えられる僧侶によって行われているようだ。



No.B5；臺配置図、立面図

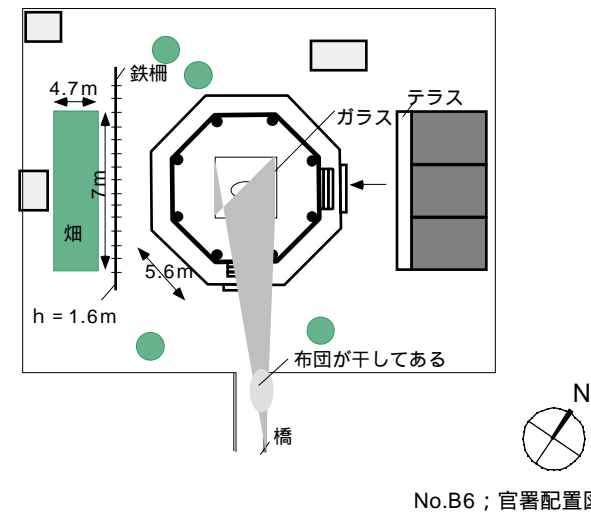
B7；官署跡

池に囲まれている島状の跡地。現在は建物が残っておらず、建物土台と柱の跡のみが存在している。

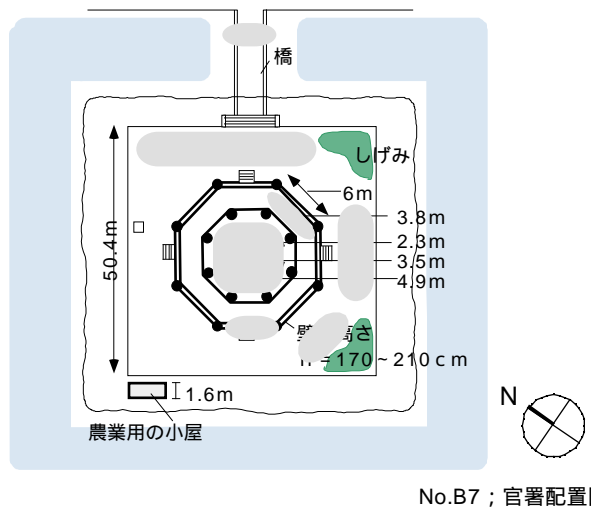


官署；No.B7

現状の使い方
夕方サッカーなどをする広場として使われている。
周辺の様子
交通量の少ない道から橋が架かっており、アクセスできる。周辺には臺、官署がありこの一帯では遺跡が固まって存在している。

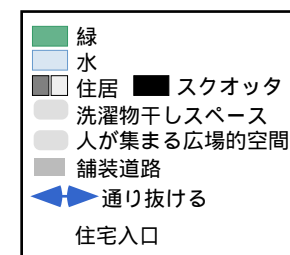


No.B6；官署配置図



No.B7；官署配置図

凡例（遺跡、歴史的建造物跡地平面図）



全体の特徴

南側のエリアの道路・建物が整備されたところにおいては、自然発生的にできた、あるいは整備不届きで余ってしまった空地での交流空間は少なく、都市公園的な広場・公園が主に使われている。
北西のエリアでは今後発展していく傾向にあるため広大な農地、未利用地が多く、そういったところでの交流、運動などの行為が見られる。

自然景観のすぐれた北東のエリアでもため池周辺、グハ周辺の未利用地がうまく使われているところがみられる。遺跡との関連を示し、今後の地域住民にとっての交流空間のあり方を模索していくべきだろう。

中央部、中央より南の部分では住宅街のなかにはにおいては、街区内部での交流空間が見られるところもあり、セミパブリックな空間が形成されているところもある。

まとめ

ここではフエで見られる交流空間とその特徴を示した。その結果、自然環境と共生する空間、人々の生活にとって大切だと考えられる空間が多く存在することがわかったが、一方で今後の課題として残されているものもある。今後の課題

未利用地、空き地が多く存在し、特に使われていない点。農地に関しては、今後近代的な技術、新たな職種の増加に伴い、農地、農家が減少するおそれがあるのではないかと。都市の発展に伴いこうした土地の使い方を検討する必要がある。

王宮周辺、王宮内においても、未だ広大な存在する敷地の使い方を検討する必要がある。

宅地が進んでいるところでは広場、交流空間が少ない点。かわりに道路上で遊ぶ子供達、談話をする大人達が増えている。ハノイなどでもこうした空間は少なく、路上で交通量の多い危険なところで遊んでいる子供達の姿が見られたりする。

歴史的建造物があった場所が特に規制もなく自由に使われている点。地域のコミュニティの場として機能を保持しているところはともかく、集合住宅になってしまっているところは今後検討が必要だろう。より公共的な意味合いを持たせた活用方法を模索しなくてはならない。修復するべきところには地域、住民にとって現代的な機能を付随した形での修復が望ましいと考えられる。

水辺において、親水空間、交流空間として使える可能性のある景観もよく、気候のいい場所にスクオッタが建ち並んでいる点。より公共的な使い方をするべきであろう。

総じて、これらの交流空間をバランスよく配置、計画していく全体のシステムが必要であると考えられる。